

実施日：10月30日（5校時）	
教科等：道徳科	
取組名：結婚差別について考える	
対 象：第3学年生徒	実施場所：教室
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在も部落差別が存在する不合理さを感じることで、差別解消のための正しい知識の必要性を認識し、差別を見抜き、差別をなくそうとする意欲を高める。 ・ 部落差別に向き合い、差別解消に向けて行動を起こす人たちの姿から、差別解消のためには、当事者だけの問題にするのではなく、一人ひとりが自分事として捉えるとともに、差別のない社会を構築するために行動しようとする意欲を高め、実践力を身に付ける。 	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <p>資料「二人の三六五日」の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を読み、何が問題になっているのかを確かめる。 ・ 翔太の両親の考え方と、それが部落差別につながっていることを考える。 ・ 翔太と奈緒が結婚するまでの一年間にどのようなことがあったのかを考えさせる。 ・ 班で話し合う形態と、四人組でロールプレイをする形態をとる 	
ウ 連携先：校内研修	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <p>事前に学年で発問や指導案等について協議を重ね、全教職員参加の公開授業を実施する。授業後は参観者全員で授業研究会を行い、発問の意図や指導方法について検討をする。また、同和問題・部落差別の問題についての研修も同時に行い、教職員の資質向上に努める。</p>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の人権学習の流れとして、2年生で「部落差別の歴史」を学習する。人権獲得の歴史の学習を基盤に、3年生では「結婚差別」の問題について考える時間をもつ。 ・ 教員が互いに授業を参観し合い、評価・検証を行うことで、よりよい発問・授業展開ができるようにする。 	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合い活動の様子 ・ ロールプレイの様子 ・ 授業後のふり返り 	
<p>キ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 差別の歴史から丁寧に学習してきたことで、部落差別が誤った認識の下で行われているということをはほとんどの生徒が理解していた。 ・ 「きらめき」の資料を活用し、校内研修において教員全体で学習することにより、令和7年度に令和6年度の研修結果を活かすことができる。 	
<p>ク 課題</p> <p>翔太の両親が、部落差別について間違った情報を得たのはどこかということも考えさせたい。情報を鵜呑みにしてしまうことは、インターネットにおける誤った情報を拡散させるといった人権侵害の授業にもつなげることができ、より一層差別の問題について理解を深めることができると考えられる。</p>	